＊EPO東北からのお知らせ

「3.11あの時　東日本大震災2011年3月11日（金）14時46分からの物語」が冊子になりました！

2011年4月からホームページに掲載してきた、環境活動に携わる皆様が語る「3.11あの時」レポートが、ヒアリング開始から1年を機に冊子となりました。40の団体・個人にご協力いただき、NPO、企業、福祉施設、協働組合、個人、さまざまな視点から東日本大震災を見つめます。

冊子は無料配布しております。ご希望の方はEPO東北までご連絡ください。

＊EPO東北オフィス利用案内

◆ミーティングルーム貸し出し〈無料〉

環境活動、震災復興支援活動のミーティングやセミナーにご利用いただけます。
開館日／月～金　　開館時間／10：00～18：00　　利用人数／30名まで
※時間外、土日の利用も可能です。事務局までご相談ください。

◆イベントチラシの設置

環境イベントや助成金等の募集チラシ、環境にまつわるパンフレットを設置しています。
お気軽にお立ち寄りください。
チラシ設置希望の方は持参または郵送でお寄せください。

＊Web-Siteのご案内

◆お役立ち情報：環境助成金情報、エコの日一覧

◆随　時　更　新：東北6県の環境イベント情報
EPO東北NEWS
東日本大震災　関連情報

スタッフによるつれづれ日記、被災地や出張先の現地レポートが人気です！
大震災から1年が経過し、2012年度は「3.11あの時」ヒアリング後を伺った追加レポートも掲載しています。

メールマガジン登録者募集中!!

発行：毎月上旬

登録：無料

内容：当月締切の環境助成金情報、環境イベント情報、EPO東北の活動情報や環境にまつわるお知らせ

＊EPO東北のパートナーシップ団体

EPO東北は各県で環境活動を進める団体の協力を得て運営しています。

青森県環境パートナーシップセンター	http://www.eco-aomori.jp/
環境パートナーシップいわて	http://www.iwate-eco.jp/
環境あきた県民フォーラム	http://www.eco-akita.org/index.html
環境ネットやまがた	http://eny.jp/
超学際的研究機構	http://www.chogakusai.ecnet.jp/
せんだい・みやぎNPOセンター	http://www.minmin.org/
環境会議所東北	http://kk-tohoku.or.jp/
仙台広域圏ESD・RCE	http://rce.miyakyo-u.ac.jp/
環境パートナーシップ会議	http://www.epc.or.jp/

環境イベント告知を掲載します

環境イベントを企画している皆さま、ぜひEPO東北事務局まで情報をお寄せください。ご提供いただいた催事情報はEPO東北のホームページ、メールマガジン等でご紹介させていただきます。

また、チラシを持参・ご郵送いただいた場合はEPO東北オフィスに設置いたします。

EPO東北は東北地方環境事務所（環境省）と財団法人みやぎ・環境とくらし・ネットワーク（MELON）が協働して運営しています。

EPO TOHOKU
東北環境パートナーシップオフィス
Environmental Partnership Office TOHOKU

〒980-0014　宮城県仙台市青葉区本町2丁目5-1　オークビル5F
TEL：022-290-7179　FAX：022-290-7181
E-mai:info@epo-tohoku.jp　URL:http://www.epo-tohoku.jp
勤務時間：月曜日～金曜日【9：30～18：00】
休　　日：土曜・日曜・祝日・お盆・年末年始

VEGETABLE OIL INK

リサイクル適性Ⓐ
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

発行日：2012年7月

TOHOKU EPO［エポ］通信

東北環境パートナーシップオフィス

vol. 15

気仙沼復興マルシェ

復興屋台村 気仙沼横丁

女川きぼうのかね商店街

石巻まちなかマルシェ

Contents

- 環境復興再生プロジェクト
  - 「『まごころの郷』～被災地復興へのフロンティア～」
  - 「和気あいあいと、さざほざと～被災地と呼ばれる地に暮らす私達の取り組み～」
  - 「いわきオーガニックコットンプロジェクト」
- EPO東北活動トピックス
- 復興支援グッズ
- 東北6県EPOトピックス

東北環境パートナーシップオフィスとは

東北環境パートナーシップオフィス（略称：EPO東北）は、東北地域の環境活動を促進するために、人と人をつなぐ拠点となることを目的としています。さまざまな分野の人や組織が垣根を越えて協働できるよう、地域の環境情報の発信と交流機会の提供を行い、活動の広がりや新たな取り組み創出のきっかけ作りを担います。たくさんの人がEPO東北をきっかけに出会い、新たな環境活動の環が広がるよう、皆さんのパートナーシップ作りを支援します。

環境復興再生 PROJECT

3月11日に発生した東日本大震災により、東北地方では大きな被害を受けました。

特に大津波に襲われた太平洋沿岸はその景観を大きく変えました。海岸の松林はことごとくなぎ倒され、田んぼは海水による塩害で作付けができなくなりました。

「何かしなければ」という多くの思いから新たなプロジェクトが生まれ、各地で環境復興再生に向けた活動が進められています。今号ではその中のいくつかをご紹介いたします。

『まごころの郷(さと)』～被災地復興へのフロンティア～

団体名／特定非営利活動法人 遠野まごころネット　理事長／多田一彦　住所／〒028-0527　岩手県遠野市大工町10-10
電話／ 0198-62-1001　FAX ／ 0198-62-1002　e-mail ／ tonomagokoro@gmail.com　URL ／ http://tonomagokoro.net/　寄稿／柳澤　亮

遠野まごころネットは、東日本大震災の発生直後、岩手県遠野市の有志が未曾有の被害に協調して立ち向かうため結成した被災地支援団体である。活動地域は大槌町、釜石市、大船渡市、陸前高田市ならびに遠野市など岩手県内被災地を中心に、宮城県と福島県、最近では竜巻被害を受けた茨城県や栃木県にも及んでいる。これまでの活動内容は、物資配布、瓦礫撤去、家屋の泥出し、炊き出し、避難所での家事手伝い、生活支援、足湯やカフェを介したメンタルケアとコミュニティの場の提供、農地再生、子ども支援（教育支援や自然学校、奨学金の支給）、なりわい支援（飲食店の開店や農林漁業の手伝い等）、イベント開催など多岐に渡る。中でも遠野まごころネットの活動の理想型と言えるものが、被災された方々のための農園「まごころの郷」の開拓事業である。大槌町小槌地区の「まごころの郷第１」と蕨打直地区の「まごころの郷第２（まごころ農園）」は家庭菜園兼いこいの場として提供されている。大槌町柾内地区の「まごころの郷第３（はーぶの郷）」はハーブ園として設計されているが、将来収穫したハーブを地場ブランド化して流通させることも視野に入れている。陸前高田市気仙町上長部地区の「まごころの郷おさべ（ふれあい広場）」は農園以外にグラウンドや製材所も併設している。これらのことからわかるように、まごころの郷は単なる農園ではなく、震災により失われたコミュニティや雇用を再創出する「地域おこし」の場にもなっている。重要なのは、まごころの郷をはじめとするすべての事業が、地元の方々に寄り添い、地元の方々と一緒にさせていただく形で行われていることである。東日本大震災発生から16か月が経過した今も、被災現地は復興には未だ遠い状況にある。今後も遠野まごころネットは、現地のニーズそして支援のフェーズの変化を的確に把握し、地域おこしに注力した復興支援活動を展開していく予定である。

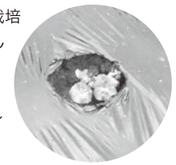
いわきオーガニックコットンプロジェクト

団体名／特定非営利活動法人ザ・ピープル　理事／吉田恵美子　住所／〒971-8101　福島県いわき市小名浜字蛭川南5-6 タウンモールリスポ内
電話／ 0246-52-2511　FAX ／ 0246-38-9538　e-mail ／ the-people@email.plala.or.jp　URL ／ http://www.iwaki-j.com/people/

本会では、昨年度から地球環境基金の助成を受け「いわきオーガニックコットンプロジェクト」と名付けた有機農法での綿花栽培を開始している。

福島県いわき市では、東日本大震災前から、農業の後継者不足などから耕作放棄地の増加が問題となっていた。それに追い討ちを掛けるように、震災が大きなダメージを与えた。農業生産者との交流の中からそうした現状について学んだ私たちは、本会が長年取り組んできた繊維リサイクル事業と繋がる部分で、繊維を育てる農業に基盤を置く新たな事業モデルを作り、農業を応援しようと考えたのである。

昨年度は、本格的な事業実施前の研修期間として、市内から参加者を募って信州大学での綿花栽培を視察し、実際に綿花の収穫や綿繰りを体験して実際の栽培のイメージを掴んだ。そうした研修を通して栽培に関心を寄せた方々から15箇所1.5haの栽培地提供を受けることが出来た。また、栽培を応援する地域ボランティアの環も生まれてきた。



今年度は、5月中に各栽培予定地でのベクレルチェックを実施後、播種を行ない、実際の栽培がスタートしている。播種の際に大きな力となったのは、首都圏からの援農体験バスツアーの参加ボランティアであり、地域で栽培地を管理する地域ボランティアと交流をしながら農作業にあたった。そして、今後は草取り・収穫と時期に応じた人手が必要となるが、人手を多くの人の繋がりと置き換え、地域民や避難者なども含めた交流の場作りの機会として活用することを計画している。中には、小学校でのプランターでの栽培も計画されており、こちらには市内の農業高校による栽培指導も行なわれる。

11月に収穫される綿花は来年2月には糸に、6月には製品になることが見込まれている。本プロジェクトを通して、これまで農業に関心を持っていなかった人々が集い、ものづくりを通して交流が生まれ、新しい産業の形をも生み出す。正にその一歩がここからスタートしている。

和気あいあいと、さざほざと

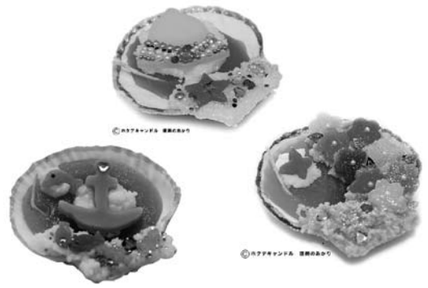
～被災地と呼ばれる地に暮らす私達の取り組み～

団体名／さざほざ
登米オフィス／ 宮城県登米市迫町佐沼字大網218-1 コンテナおおあみ「さざほざ事業部」
電話／ 0220-44-4210　FAX ／ 0220-44-4202　担当／岡崎文恵／千葉良子
仙台オフィス／ 宮城県仙台市若林区新寺3-12-32 「うれしや」内　担当：足立千佳子
Mail ／ info@sazahoza.kontena.jp　URL ／ http://www.sazahoza.kontena.jp/

さざほざの母体であるRQ被災地女性支援センター（RQW）は、RQ市民災害救援センター（当時）での緊急支援期の時期から、女性の視点での避難所運営、あるいは仮設住宅等へ引っ越したあとのサポートが必要だと考え、2011年6月1日に発足しました。RQWの活動のひとつとして、「さざほざ」は宮城県北部沿岸地域に暮らす女性達の「手仕事」プロジェクトに取り組み、アクリル毛糸で編んだ洗剤いらずのエコタワシ「編んだもんだら」や、石巻、歌津、登米に暮らす人々の手わざを組み合わせて作った「稲わらリース」などの手仕事作品をプロデュースしてきました。そうして、2012年6月1日に、「さざほざ」は東北の暮らしの知恵をコミュニティビジネスとして発信していくべく、RQWから独立しました。「さざほざ」は・手仕事づくり・食・被災地の今を発信するの3つの視点での活動を展開しています。編んだもんだらをはじめとする被災地の女性の手仕事は宮城県登米市にあるビジネスインキュベート施設「コンテナおおあみ」がお母さん達のお仕事づくりとして展開しています。現在、編んだもんだらは、「タコ」「イカ」「ひらめ」「マンボウ」「ホヤ」「わかめ」「めかぶ」「椿」と各地域に親しまれている特産品をモチーフにオリジナルデザインのエコタワシを製作しています。また、いくつかの地域の商品・作品を組み合わせたコラボ商品づくりにも取り組んでいます。これらの活動を通して、これから先のコミュニティづくりへの参画ができるような女性たちの精神的自立を促していきます。食については、宮城の海と里と山をつないだ、美味しい食の在り方を提案するため、仙台市内にコミュニティカフェ（うれしや）をオープンしました。うれしやでは、登米や南三陸、気仙沼の食材を使ったメニューを提供するとともに、コミュニティスペースを利用した、さまざまなミニ講演会、ミニ講座を開催し、民ベースでの公共を考える場となっています。そうして、手仕事や、食、あるいはまちづくりの視点なども入れ、さまざまな機会に、被災地の現状を仙台のみなさんにお知らせし、仙台のみなさんが、全国に現状を発信できるような取り組みをしていきます。

復興支援グッズ

環境再生活動の支援につながる、または復興支援につながるエコグッズ（マイバッグなど）



1

ホタテキャンドル～復興のあかり～

南三陸町のホタテキャンドル～復興のあかり～は、津波で唯一残ったホタテ貝の上に浜の女性達がろうでデコレーションをし、一つ一つ手作りでお届けする手作りキャンドルです。

販売収益は全額、仮設住宅に暮らし、職を失った浜の女性の収益になります。すべて異なるデザインで、世界の一つのキャンドルです。

http://hotatecandle.com/

2

新聞バッグ

2011年3月11日の津波被災や原発事故から鳴子温泉に避難してきた海の手メンバーと、隣町岩出山町の四人の山の手メンバーが出会い、共に「残ったお互いの手を活かして手仕事で経済復興を」と新聞バッグ作りに取り組みました。この一年で約八千枚のバッグを製作販売し、売り上げの一部は海の手メンバーの生活資金として役立っています。新聞バッグは今もなお進化し続け、新作品もできました。皆さまのご購入をお願い致します。

金額は、大、中、小　各500円、300円、200円
セットでの販売1000円、送料別
またオーダーも承ります。（例えばＡ４サイズが入るバッグなど）

海の手山の手ネットワーク
TEL0229－25－9956（NPO法人おおさき地域創造研究会内）

http://uminote-yamanote.net/product.html

3

気仙沼ミサンガ～復興の祈りを込めて～

材料費以外の売上を被災者に還元し、自分達の力で被災から立ち上がろうとする意欲を応援する「気仙沼ミサンガ」。震災で仕事を失ったお母さん達を支援する為“家族で出来る仕事でありながら収入を得る”システムを考えました。

商品には被災者それぞれのエピソードが載っているカードと被災者に直接メッセージを送れるハガキが同封されています。

心を込めて編んだミサンガで気持ちがつながることを願って・・・

価格：500円（税込）

気仙沼ミサンガプロジェクト：080-5932-8880

http://kese-skk.jp

4

手作り箸入れ「勝箸」

宮城県漁協雄勝町雄勝湾支所のお母さん達が仮設住宅で一つ一つ心を込めて折った箸入れです。雄勝町の「勝」の字を入れて【勝箸】と名付けました。

同封のお札は津波被害を免れた雄勝町立浜鎮守「北野神社」にてお祓いを受けています。受験や大切な時のお守りとしてお持ち下さい。

皆様に「勝」が訪れますように。

※お箸は東京外神田「箸勝本店」様のご好意により吉野杉白柾利休箸を使用しております。

※箸入れ一つにつき作り手さんに100円が支払われます。

販売価格＝1本入り：300円　2本入り：600円※消費税含む

主な販売所　JR仙台駅「絆」ショップ　　仙台一番町　鈴木陶器店／大観櫻

お問い合わせ　雄勝湾漁協を支援する会　TEL：022－716－2064

オフィシャルHP：http://ogatsu.mfun.jp/

エコロジー（環境）とエコノミー（経済）が共生できるまちづくり

世界自然遺産白神山地の自然との共生により育まれた文化、真の共生を身近に感じながら、地方固有の知を生かした新たなまちづくりへと歩み始めた。

東北6県 EPOトピックス 青森

NPO法人ECOリパブリック白神
●青森県弘前市百石町38-1
●TEL：0172-88-8808
●FAX：0172-88-8809
●HP：www.shirakamifund.jp
●E-mail：jimukyoku @shirakamifund.jp
●寄稿：理事長　渋谷　拓弥　氏

青森県と秋田県にまたがる世界自然遺産白神山地をECOの象徴と位置づけ、貴重な自然環境を守り、自然の恵みにより育まれたブナ文化を継承し、環白神における地域づくりを応援するためのまちづくり系ソーシャルエンタープライズとして、平成21年4月、NPO法人ECOリパブリック白神（以下：エコリパ）が設立した。リパブリック=共和国。

地球温暖化防止、自然エネルギー、環境教育の側面で、広大な森のポテンシャルに期待が高まる中、白神山地ブランドを活かした各種事業展開並びに政策提言に取り組んできた。

現在は「LEDによるまち明かりのプロデュース」や「地域通貨による家庭の環境配慮行動促進事業」、そして「農業振興と中心市街地活性化を同時に目指す弘前マルシェ」などが代表的な事業といえる。

弘前マルシェについてだが、エコリパの事業方針である「戦略的地域資源経営」に沿って、①農家自らが値段をつけられる農業、②食の安全・安心の担保、③食による中心市街地活性化、④そして勿論フードマイレージ削減を目指し企画立案、弘前市へ提案、平成23年より市の重点事項として事業をスタートさせた。言うに及ばず弘前市は白神山地の恵みによる豊かな食文化を持ち、その地方固有の知を活かしたまちづくりのお手伝いである。今後は弘前市のみならず、環白神周辺地域に事業拡大を図りたい。

エコリパは設立時より、「白神山地の環境保全と環白神における持続可能な経済活動のための基盤確立」というミッションを持ってきた。NPO法人としての3年間の経験を活かし、平成24年2月、一般財団法人白神山地財団の設立を実現した。世界自然遺産白神山地の自然との共生により育まれた文化、真の共生を身近に感じながら、地方固有の知を生かした新たなまちづくりへと歩み始めた。

緑のカーテンプロジェクトいわて

○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

東北6県 EPOトピックス 岩手

緑のカーテンプロジェクトいわて
NPO法人環境パートナーシップいわて（盛岡）
岩手県立大学総合政策部（滝沢）
小岩井農牧（株）小岩井農場（雫石）
NPO法人 Asia Environmental Alliance
NPO法人日本ビオトープ協会
岩手・木質バイオマス研究会
NPO法人緑のカーテン応援団
連絡事務所
●〒020-0045　岩手県盛岡市盛岡駅西通１丁目7-1
岩手県地球温暖化防止活動推進センター内
●TEL：019-606-1752（事務局：佐々木）
●FAX：019-606-1753

2008年、JAXAの土井隆雄宇宙飛行士によって運ばれ、国際宇宙ステーション（ISS）内に9か月間保存されたアサガオ種子（品種ムラサキ）は日本で発芽後栽培され、それから採取した二代目種子3,800粒の内2,500粒が岩手県立大学総合政策学部・平塚明教授に送られました。

このアサガオ種子から作った「緑のカーテン」を仮設住宅に設置し日陰と共に潤いを提供することを目的として、平塚教授・小岩井農牧野澤顧問と志を同じくする人達によって、プロジェクト（GCPI）が結成されました。

GCPIによる主な活動としては6月初旬に釜石市・大槌町協力者との打合せおよび設置場所の下見、中旬に釜石地区・大槌地区仮設住宅への設置方法現地検討会を実施し、昨年に引き続き今年度も釜石市のあさがおネットワーク（加藤直子代表）、仮設住宅の住民の方々、及び釜石市ボランテイアセンターからの派遣ボランテイア、大槌町、まごころ広場・臼澤良一代表、遠野まごころネット、仮設住宅住民のみなさまのご協力で大槌町内および釜石市中妻町・小佐野の仮設住宅団地に緑のカーテンの設置を開始しました。

また、全国的に活動を展開しているNPO「緑のカーテン応援団」との交流と連携を深めています。

あさがおネットワークとの連携により設置住民のフォローを行うと共に仮設住民とのコミュニケーションをはかり孤独化を防ぐ活動を継続しています。

環境教育防災林の整備について

○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

昨年の東日本大震災では、津波の直撃を受けながら裏山や高台に逃れて難を逃れた学校がありました。これを教訓に、周辺に山林を有する数校をモデルとして、山林の持ち主・周辺住民・自治体等と協働で、避難通路を整備して防災環境（湧水・井戸の整備、食料供給、避難用広場）や環境教育機能（自然観察環境・ビオトープ整備等）を兼ね備えた「環境教育防災林」の整備を発案しました。

南三陸町から福島県境までの海岸沿線を調査して、条件を満たすモデル校の一つとして石巻市北上町の市立橋浦小学校に着目しました。校長先生に電話で私たちが考えている事業内容を提案させていただきましたところ、先生も同様に裏山を避難場所に活用することが出来ないかと考えておられたとのことで、早速お会いして打合わせをしました。裏山の半分が石巻市の市有林、残りが近くにお住まいの方の私有林で、いずれも利用の快諾を得ました。ニセアカシアやモミの幼木が多く、かなり荒れた状態の山でしたが、昔里山として使われた痕跡を復活させて観察道に整備して平成24年３月から４月にかけて延べ５回・113名のメンバーで基礎的な整備を終了しました。

早速児童140名・教職員40名、合わせて180名で避難訓練を行ったところ、整備された中央広場に余裕があり、安全な避難場所としての機能が証明されたとのことでした。今後は観察道のコース名板・樹木への樹名板・小鳥用の巣箱作りと設置作業などの案に加えて、総合的学習への活用プログラム案等も提案させていただき、いよいよ活用段階に入ります。

最終的には、近い将来大地震が予想されている東海・東南海方面に災害対策事例として発信し、悲惨な犠牲を繰り返さないよう役立ててもらおうと考えています。

東北6県 EPOトピックス 宮　城

NPO法人宮城県森林インストラクター協会
●〒981-0121　宮城県宮城郡利府町神谷沢字菅野沢41
●TEL & FAX：022-255-8223
●HP：http://mifi.main.jp/

かみのやま温泉・EVエコタウンプロジェクト

電気自動車EVを使った新しい旅づくり

ドイツのクアオルト（保養地）を手本とした滞在型温泉保養地づくりを進めている上山市。「健康」「環境」「観光」の3要素をキーワードとしており、環境面の取り組みとして、ガソリンを使わず二酸化炭素を発生しない電気自動車（EV）の普及を目指している。

平成23年5月、市や温泉旅館、観光団体、自動車メーカーなどが連携し「かみのやま温泉クアオルト・EVエコタウンプロジェクト推進協議会」（堺健一郎会長）を発足。県の「新しい公共の場づくりのためのモデル事業」に採択された。

旅館9軒が普通充電器を宿に設置。山形日産グループが市役所に急速充電器を寄付、山形パナソニックが太陽光発電装置（2.76kW）を提供し、NPO法人環境ネットやまがたが普及啓発看板を設置など、官民が連携し、また地域が一体となってプロジェクトを進めている。

上山市役所の急速充電器は、県内の市町村では初導入で、庁舎正面入り口前に設置され、利用料金は1回500円で24時間利用可能である。一般的に普通充電器では100%充電するのに8時間ほどかかるのに対し、急速充電器は30分ほどで80%充電する。なお、他に山形県内にある急速充電器は、自動車販売会社や、山形県庁前にも設置されている。

また、「電気自動車貸し出し事業」として、昨年に引き続き平成24年6月～12月に、上山市観光物産協会と温泉旅館・ホテルがEVを共有し観光客に貸し出しドライブを楽しんでもらっている。

東北6県 EPOトピックス 山　形

**かみのやま温泉クアオルト・
EVエコタウンプロジェクト事業推進協議会
（事務局：上山市観光物産協会）**
●〒999-3192　山形県上山市河崎1-1-10
●TEL：023-672-0839
●FAX：023-673-3622
●HP：http://kaminoyama-spa.com/

小学生環境学習副読本「わたしたちのくらしとかんきょう」について

学校の授業で使いやすい副読本にするために

秋田市環境部では、子どもたちが、身近な自然や地域の環境を大切にする意識を持ち、環境について興味をもってわかりやすく学習できるよう、小学生環境学習副読本「わたしたちのくらしとかんきょう」を作成し、毎年、小学校４年生の児童全員に配布しています。（小学６年生までの３年間使用）

編集にあたっては、環境学習・教育が、総合的な学習の時間だけでなく、社会や理科の教科の時間で多く行われているという市内小学校の実態を踏まえ、教科書の単元と副読本の該当ページの対照表を添付するなど、教科との関連にも十分留意し、学校の授業で使いやすいような工夫をしています。

また、この副読本では、環境に関する秋田市の取り組みをわかりやすく紹介しているほか、秋田の豊かな自然環境の素晴らしさを感じてもらうよう、多くの写真を掲載しています。

市内全小学校を対象に行ったアンケートによれば、８割以上の学校がこの副読本を何らかの形で環境学習に利用しているとの回答がありました。

今後とも、この副読本が、小学校の授業で積極的に活用してもらえるよう、学校現場のニーズを踏まえながら、社会情勢の変化に応じて、内容の一層の充実を図っていきたいと考えています。

東北6県 EPOトピックス 秋　田

秋田市環境部環境総務課
●〒011-0904　秋田県秋田市寺内蛭根三丁目24-3
●TEL：018-863-6862
●FAX：018-863-6630
●HP：http://www.city.akita.akita.jp/city/ev/rc/fukudokuhon/pre-default.htm
●E-mail：ro-evmn@city.akita.akita.jp

「猪苗代湖の環境を学ぶ」学習プログラム教材を開発しました！

～美しい猪苗代湖を後世に残すために～

皆さんは福島県の中央に位置する猪苗代湖に行ったことはありますか？

猪苗代湖は福島県のシンボルであり、古（いにしえ）から人々の暮らしに深く関わり合い、四季折々の自然を映し出しています。市街地に近いにもかかわらず猪苗代湖には「酸性の水」と「植物の吸収」という天然の自然浄化システムがあり、全国水質ランキング（湖沼部門）で1位を続けてきました。しかし、近年、湖水の中性化が進み自然の浄化機能が低下し、湖岸付近の水質汚濁など水環境の悪化が懸念されています。

このような猪苗代湖の現状を正しく理解するとともに、猪苗代湖の恵みや古からの人々との関わり、自然・生活環境の変化が及ぼす影響などを分かりやすく伝える「環境学習プログラム」をNPO法人ゆいツール開発工房（ラボ）の山本かおりさん、小山厚子さんの指導の下、日大工学部中村名誉教授、猪苗代町、猪苗代町振興公社、郡山市、福島県、猪苗代湖の自然を守る会、うつくしま地球温暖化防止活動推進員と協働で開発しました。

この環境学習プログラムは、実験をとおして猪苗代湖の水質浄化のメカニズムを理解し、猪苗代湖と人との関わりの歴史を振り返ることで、多岐にわたる猪苗代湖の恩恵や、私たちの暮らしとの繋がりに気づき、クイズをとおしてこれからの湖との関わり方や、暮らしとエネルギーを考える小学生高学年から大人まで楽しく遊びながら学べる参加型のプログラムです。この環境学習プログラムが大いに学校や地域のイベント等で活用され、これからも猪苗代湖の水質がきれいなままに保たれることを願っています。

東北6県 EPOトピックス 福　島

**特定非営利活動法人超学際的研究機構
（福島県地球温暖化防止活動推進センター）**
●〒960-8043　福島市中町８番２号自治会館７階
●TEL：024-525-8891
●FAX：024-523-4567
●E-mail：info@chogakusai.ecnet.jp